

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） こども教育学部こども教育学科

【設置の趣旨・目的等】

1. カリキュラム・ポリシーにおいて、学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから適切に改めること。（改善事項） 2

【教育課程等】

2. ディプロマ・ポリシー（4）に「特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力」を掲げており、これに対応する教育課程として専門教育科目において「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」という科目群を設けている。一方、必修科目は演習科目と講義科目がそれぞれ1科目設定されており、当該科目群は「適切な理解」までは対応していると見受けられるものの、「保育を実践し、育ちを支える力」を身につける授業科目は選択科目であることに加え、履修モデルは特別支援教育教員の免許取得を前提とする学生のみが示されているのみであることから、全ての学生に対してディプロマ・ポリシー(4)の「保育を実践し、育ちを支える力」を養成する教育課程となっているか不明確であることから、改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項） 6

【入学者選抜】

3. アドミッション・ポリシー（1）において「子どもを愛し、子どもの最善の利益を守り、高い倫理観・使命感・責任感を持って子どもの保育を行いたいと考える」を掲げているが、大学入学者共通テスト利用選抜においては「書類審査」がどのような書類によって判断するか不明確であり、仮に高等学校等の調査書のみであった場合は、アドミッション・ポリシー（1）に掲げる意思や態度を適切に判断できるかについて疑義がある。大学入学者共通テスト利用選抜における確認方法を含めて、各入試区分におけるアドミッション・ポリシー（1）の確認方法について具体的に説明すること。（是正事項）

11

【学生確保の見通し・人材需要の社会的動向】

4. 定員充足の根拠となる客観的なデータとして申請段階における業者アンケート調査に基づいて「受験したいと思う」と回答した者のうち、本学に「入学したい」と回答した者の数を示しているが、回答者の高校卒業後の希望進路や興味のある学問についてクロス集計がなされておらず、回答者の入学見込みについて適切に分析したものとは判断できない。また、当該調査の対象者を踏まえると、複数の大学等を併願することが一般的に想定されるが、調査票の選択肢は併願先を踏まえた入学意向を確認できるものとなっておらず、定員充足の根拠となる客観的なデータが適切に示されているとは判断できない。回答者の進路希望や興味のある学問分野、併願状況を踏まえて適切にクロス集計し、分析されたデータを改めて示すなど、定員充足の根拠となる客観的なデータを基に改めて説明す

るとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項) 19

(改善事項) こども教育学部こども教育学科

1. カリキュラム・ポリシーにおいて、学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから適切に改めること。

(対応)

ご指摘のとおり、カリキュラム・ポリシーにおいて、学修成果の評価の在り方等についての具体的記述を明記していなかった為、以下のとおり記述を行う。

本学部ではディプロマ・ポリシー達成に向けたカリキュラム・ポリシーを踏まえて各授業科目により教育課程を編成しているが、各授業科目の到達目標はシラバスにある評価方法（筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への参加態度等）により、公正かつ的確に評価を実施する。その達成すべき水準としての評語は、秀、優、良、可を合格として、不可を不合格とする。評語に係る成績は下表の通りである。なお、学生が能動的に学修に取り組み、必要な資質・能力を身に付けるようにカリキュラムツリーとカリキュラムマップを配付するとともに、各授業科目の到達目標、授業概要と内容、ディプロマ・ポリシーとの関係、評価方法等を記したシラバスを必要に応じて確認できるようにしておく。

秀	90 点以上 100 点
優	80 点以上 90 点未満
良	70 点以上 80 点未満
可	60 点以上 70 点未満
不可	60 点未満

表 1. 評語に係る成績

成績評価は履修状況一覧で開示すると同時に、GPA を活用して学年ごとの学修成果の全体的把握ができるようにする。また、履修カルテにより幼稚園教諭免許及び特別支援学校教諭免許取得に向けて必要な単位取得を確認できるようにするが、その際、学習の状況と授業担当のコメントを付語して振り返りに役立てるようにする。さらに、「必要な資質・能力の自己評価」を活用して各学年の履修終了時に学生が自己評価を行う体制とする。自己評価と成績の乖離が大きい学生及び自己評価の低い学生に対しては、個別指導を行うことで、ディプロマ・ポリシーを達成し、幼児教育・保育者を養成することとする。「必要な資質・能力の自己評価」による評価は、1 年次から 3 年次については、各年度末に実施する。4 年次は、前期の学期末に実施する。このようにして各科目と全体的な学習状況、自己評価をあわせて全体的な学修支援を進めることにする。

なお、各科目の GPA については 2.00～3.00 を目安として科目間の評価値の是正に努めるようにする。このことにより学生が自分自身の得手不得手などの学力傾向や学修と評価との関係を把握できるようにして、幼児教育者・保育者としての資質・能力の向上を図ることにする。また、授業改善アンケートを実施して各授業科目の実施方法やわかりやすさ、内容理解、授業への満足度や学修意欲について学生の意見や要望等を把握することにより、教員の授業改善及びこども教育学部の教育活動全般の質の向上を図ることにする。

※GPA の算出

$$\frac{(\text{秀 } 4 \times \text{修得単位}) + (\text{優 } 3 \times \text{修得単位数}) + (\text{良 } 2 \times \text{修得単位数}) + (\text{可 } 1 \times \text{修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

一方、学部・学科の教育課程の総合的評価として、学位授与数、幼稚園教諭1種免許状取得率、保育士資格取得率、特別支援学校教諭1種免許状取得率、就職率、卒業時アンケートにより測定して、学部教育の向上を図る資料にする。

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載したページ (13-15 ページ)

新	旧														
<p>1 設置の趣旨及び必要性 (略) (4) 教育の理念と学修成果の検証 (略)</p> <p>エ 学修成果の評価の在り方</p> <p><u>ディプロマ・ポリシーの達成に向けて、下表の項目で学修成果を計測し、学部教育と学生の学修の改善を図る。</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">在学中</th> <th style="text-align: center;">卒業時・卒業後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・成績評価</td> <td>・学位授与数</td> </tr> <tr> <td>・GPA</td> <td>・幼稚園教諭一種免許状取得率</td> </tr> <tr> <td>・修得単位数</td> <td>・保育士資格取得率</td> </tr> <tr> <td>・履修カルテ</td> <td>・特別支援学校教諭免許状取得率</td> </tr> <tr> <td>・授業改善アンケート</td> <td>・就職率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・卒業時アンケート</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表1 学修成果の計測</p> <p><u>本学部ではディプロマ・ポリシー達成に向けたカリキュラム・ポリシーを踏まえて各授業科目により教育課程を編成しているが、各授業科目の到達目標はシラバスにある評価方法(筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への参加態度等)により、公正かつ的確に評価を実施する。その達成すべき水準としての評語は、秀、優、良、可を合格として、不可を不合格とする。評語に係る成績</u></p>	在学中	卒業時・卒業後	・成績評価	・学位授与数	・GPA	・幼稚園教諭一種免許状取得率	・修得単位数	・保育士資格取得率	・履修カルテ	・特別支援学校教諭免許状取得率	・授業改善アンケート	・就職率		・卒業時アンケート	<p>1 設置の趣旨及び必要性 (略) (4) 教育の理念と学修成果の検証 (略) (新設)</p>
在学中	卒業時・卒業後														
・成績評価	・学位授与数														
・GPA	・幼稚園教諭一種免許状取得率														
・修得単位数	・保育士資格取得率														
・履修カルテ	・特別支援学校教諭免許状取得率														
・授業改善アンケート	・就職率														
	・卒業時アンケート														

は下表の通りである。なお、学生が能動的に学修に取り組み、必要な資質・能力を身に付けるようにカリキュラムツリーとカリキュラムマップを配付するとともに、各授業科目の到達目標、授業概要と内容、ディプロマ・ポリシーとの関係、評価方法等を記したシラバスを必要に応じて確認できるようにしておく。

秀	90点以上 100点
優	80点以上 90点未満
良	70点以上 80点未満
可	60点以上 70点未満
不可	60点未満

表 2. 評語に係る成績

成績評価は履修状況一覧で開示すると同時に、GPA を活用して学年ごとの学修成果の全体的把握ができるようにする。また、履修カルテにより幼稚園教諭免許及び特別支援学校教諭免許取得に向けて必要な単位取得を確認できるようにするが、その際、学習の状況と授業担当のコメントを付語して振り返りに役立てるようにする。さらに、「必要な資質・能力の自己評価」を活用して各学年の履修終了時に学生が自己評価を行う体制とする。自己評価と成績の乖離が大きい学生及び自己評価の低い学生に対しては、個別指導を行うことで、ディプロマ・ポリシーを達成し、幼児教育・保育者を養成することとする。「必要な資質・能力の自己評価」による評価は、1年次から3年次については、各年度末に実施する。4年次は、前期の学期末に実施する。このようにして各科目と全体的な学習状況、自己評価をあわせて全体的な学修支援を進めることにする。

なお、各科目のGPAについては2.00～3.00を目安として科目間の評価値の是正に努めるようにする。このことにより学生が自分自身の得手不得手などの学力傾向や学修と評価との関係を把握できるようにして、幼児教育者・保育者としての資質・能力の向上を図ることにする。また、授業改善アンケートを実施して各授業科目

の実施方法やわかりやすさ、内容理解、授業への満足度や学修意欲について学生の意見や要望等を把握することにより、教員の授業改善及びこども教育学部の教育活動全般の質の向上を図ることとする。

※GPAの算出

$$\frac{(\text{秀 } 4 \times \text{修得単位}) + (\text{優 } 3 \times \text{修得単位数}) + (\text{良 } 2 \times \text{修得単位数}) + (\text{可 } 1 \times \text{修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

一方、学部・学科の教育課程の総合的評価として、学位授与数、幼稚園教諭一種免許状取得率、保育士資格取得率、特別支援学校教諭一種免許状取得率、就職率、卒業時アンケートにより測定して、学部教育の向上を図ることとする。

【資料 1-8 履修カルテ（評価・コメント用紙）】

【資料 1-9 履修カルテ（幼稚園教諭一種免許状）】

【資料 1-10 履修カルテ（特別支援学校教諭一種免許状）】

【資料 1-11 履修カルテ（自己評価）】

【資料 1-12 授業改善アンケート質問項目】

オ 入学者の受け入れ方針
(略)

エ 入学者の受け入れ方針
(略)

(是正事項) こども教育学部こども教育学科

2. ディプロマ・ポリシー (4) に「特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力」を掲げており、これに対応する教育課程として専門教育科目において「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」という科目群を設けている。一方、必修科目は演習科目と講義科目がそれぞれ1科目設定されており、当該科目群は「適切な理解」までは対応していると見受けられるものの、「保育を実践し、育ちを支える力」を身につける授業科目は選択科目であることに加え、履修モデルは特別支援教育教員の免許取得を前提とする学生のみが示されているのみであることから、全ての学生に対してディプロマ・ポリシー(4)の「保育を実践し、育ちを支える力」を養成する教育課程となっているか不明確であることから、改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ディプロマ・ポリシー (4) に「特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力」を掲げていることについて、必修科目と選択科目のバランスから「適切な理解」は図れるものの、「保育を実践し、育ちを支える力」を全ての学生に養成するには至らないのではないかと指摘をいただいた。新設を申請しているこども教育学部では幼児教育、保育、特別支援教育の三つを柱に、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格、特別支援学校教諭一種免許状を取得することを基本に履修モデルを作成していたところだが、全ての学生がディプロマ・ポリシー (4) を確実に達成できる教育課程編成になるように卒業必修科目、科目配置等を下記①②のように見直して是正事項に対応したいと考える。

① 「保育を実践し、育ちを支える力」を全ての学生に養成する卒業必修科目

科目群「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」では、「特別支援教育概論」「障害児教育総論」の2科目のみを卒業必修科目として教育課程を編成していた。しかし、「保育を実践し、育ちを支える力」を全ての学生に養成するには、例えば「特別支援学校教諭一種免許状」を取得できない場合などには学修が不足することが考えられる。そこで、卒業必修科目を増やすとともに系統的に配置することにした。具体的には、幼児教育、保育の現場で障害のある子どもの理解と関わり軸になる科目として「知的障害児の心理・生理・病理」「知的障害児教育論」及び、発達障害児の幼児教育、保育について扱う「療育論」を卒業必修科目にする。このように卒業必修科目を初年度から順次配置するとともに、「障害児教育課程論」、「特別支援教育コーディネーター論」などの選択科目を配置することで「特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力」を全ての学生に養う教育課程にする。

② 「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」を計画的に学修する科目配置

これまでの教育課程では、「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」についての学修が2年後期から後に集中していた。新設を申請しているこども教育学部は幼児教育、保育、特別支援教育の三つを柱にしていることを踏まえれば、特別支援教育に関する学修を計画的に進めて学びを深めることが必要である。そこで、卒業必修科目を増やすとともに、科目群「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」の各科目を各期に2～3科目程度ずつ履修するように教育課程を整理した。このことで、幼児教育、保育に並んで特別支援教育への知見を漸次高め、全ての学生がDP4を達成する力をつけるようにする。

(新旧対照表)「設置の趣旨等を記載した書類」(28 ページ)

新	旧
<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p>オ カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの相関 (略)</p> <p><u>特別な支援を必要とする子どもへの適切な理解に基づいた保育を实践する DP4 を達成するために、まず、幼児期の特别支援教育及び障害児保育の基本の理解を図る「特别支援教育概論(障害児保育を含む)」と「障害児教育総論」の二つを卒業必修科目として学修する。次に、知的障害児、肢体不自由児、病弱児それぞれの「心理・生理・病理」、「教育論」で学びを深めるが、このうち幼児教育、保育の現場で出会う障害のある子どもとの適切な関わりの軸となるように「知的障害児の心理・生理・病理」及び「知的障害児教育論」を卒業必修科目として学修する。そして、知的障害については「知的障害時の言語指導」でさらに学びを深められるようにする。また、発達障害の行動特性を踏まえた具体的な教育支援と連携について取り扱う「療育論」を卒業必修科目とする。加えて、保育の現場で組織的・計画的な支援を進める「特别支援教育コーディネーター論」や保育指導案、学習指導案作成等に関して「障害児教育課程論」で学びを深められるようにする。このような卒業必修科目を各学年各期におくとともに、選択科目も含めて特别支援教育に関する科目を各期に3科目程度ずつ履修する教育課程とすることで、特別な支援を必要とする乳幼児を理解し、保育する科目が系統的に配置されたカリキュラム(CP4)として、幼児教育、保育に並んで特别支援教育への知見を漸次高め、全ての学生がDP4を達成する力をつけるようにする。</u></p> <p>以上のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係は次の図のように示すことができる。</p>	<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p>オ カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの相関 (略)</p> <p>特別な教育支援を行う力を身に付ける DP4 を達成するために、CP4に沿って、子どもの障害の状況の理解について体系的に学ぶことができるように科目を配置して学修を進める。</p> <p>以上のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係は次の図のように示すことができる。</p>

(新旧対照表)「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))(修正分・抜粋)

新											旧															
教育課程等の概要											教育課程等の概要															
(こども教育学部こども教育学科)											(こども教育学部こども教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	准教授	講師	助教					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	准教授	講師	助教		
特別な支援を必要とする子どもの理解と援助 専門教育科目	特別支援教育概論(障害児保育を含む)	1前	2				○	1	1			共同	特別な支援を必要とする子どもの理解と援助 専門教育科目	特別支援教育概論(障害児保育を含む)	1前	2				○	1	1			共同	
	療育論	3前	2			○		2	2			共同		療育論	3前	2			○		2	2			共同	
	療育論演習	3後	1				○		2			共同		療育論演習	3後	1				○		2			共同	
	障害児教育総論	1前	2				○	1				兼2		特別な支援を必要とする子どもの理解と援助 専門教育科目	障害児教育総論	1後	2				○	1				兼2
	知的障害児の心理・生理・病理	1後	2				○					兼2			知的障害児の心理・生理・病理	2前	2				○					兼2
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2前	2				○					兼2			肢体不自由児の心理・生理・病理	2後	2				○					兼2
	病弱児の心理・生理・病理	1後	2				○			1					病弱児の心理・生理・病理	2後	2				○			1		
	知的障害児教育論	2前	2				○	1	1						知的障害児教育論	2後	2				○	1	1			
	肢体不自由児教育論	2後	2				○	1	1						肢体不自由児教育論	3前	2				○	1	1			
	病弱児教育論	2前	2				○			1					病弱児教育論	3前	2				○			1		
	特別支援教育コーディネーター論	3後	2				○	1							特別支援教育コーディネーター論	3前	2				○	1				
	知的障害児の言語指導	2後	2				○	1							知的障害児の言語指導	4前	2				○	1				
	障害児教育課程論	3前	2				○	1							障害児教育課程論	3前	2				○	1				
	重複/発達障害児教育総論	3前	2				○	1							重複/発達障害児教育総論	4前	2				○	1				
	視覚障害児教育総論	3後	2				○	1							視覚障害児教育総論	3後	2				○	1				
	聴覚障害児教育総論	3後	2				○	1							聴覚障害児教育総論	3後	2				○	1				
	特別支援学校教育実習	4後	2					○	2	1		共同			特別支援学校教育実習	4後	2					○	2	1		共同
	特別支援学校教育実習指導	4通	1					○	2	1		共同			特別支援学校教育実習指導	4通	1					○	2	1		共同
小計(18科目)	—	10	24	0	—	—	2	2	1	0	0	兼3	—		4	30	0	—	—	2	3			兼3	—	

(新旧対照表)「カリキュラムツリー」(修正分・抜粋)

新											旧												
こども教育学部 カリキュラムツリー											こども教育学部 カリキュラムツリー												
科目区分	授業科目の名称	1年次		2年次		3年次		4年次		備考	科目区分	授業科目の名称	1年次		2年次		3年次		4年次		備考		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				前期	後期									
特別な支援を必要とする乳幼児を理解し、保育する力を養うための科目を体系的に配置します。また特別支援学校教諭の養成課程を設け、特別な支援について、より学びを深めることができるようにします。 専門教育科目	(兼)特別支援教育概論(障害児保育を含む)	2		2							特別な支援を必要とする乳幼児を理解し、保育する力を養うための科目を体系的に配置します。また特別支援学校教諭の養成課程を設け、特別な支援について、より学びを深めることができるようにします。 専門教育科目	(兼)特別支援教育概論(障害児保育を含む)	2		2							特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実施し、育ちを支える力を身につけていきます。	
	障害児教育総論	2		2								障害児教育総論	2		2								
	知的障害児の心理・生理・病理	2		2								知的障害児の心理・生理・病理	2		2								
	病弱児の心理・生理・病理	2		2								病弱児の心理・生理・病理	2		2								
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2		2								肢体不自由児の心理・生理・病理	2		2								
	知的障害児教育論	2		2								知的障害児教育論	2		2								
	障害児教育課程論	2		2								障害児教育課程論	2		2								
	視覚障害児教育総論	2		2								視覚障害児教育総論	2		2								
	聴覚障害児教育総論	2		2								聴覚障害児教育総論	2		2								
	特別支援教育コーディネーター論	2		2								特別支援教育コーディネーター論	2		2								
	重複/発達障害児教育総論	2		2								重複/発達障害児教育総論	2		2								
	知的障害児の言語指導	2		2								知的障害児の言語指導	2		2								
	特別支援学校教育実習指導	1										特別支援学校教育実習指導	1										
	特別支援学校教育実習	2										特別支援学校教育実習	2										

(新旧対照表)「履修モデル 事例①」

新

Table showing curriculum details for the 'New' model. It includes columns for course type (General Education, Specialized Education), semester (1st, 2nd, 3rd, 4th year), and credit requirements. Total credits are 151.

旧

Table showing curriculum details for the 'Old' model. It includes columns for course type (General Education, Specialized Education), semester (1st, 2nd, 3rd, 4th year), and credit requirements. Total credits are 152.

(新旧対照表)「履修モデル 事例② (編入学)」

新																										
幼・保・特支免を取る場合【履修モデル】 事例②(編入学)		取得できる学位及び資格: 学士(教育学)+幼稚園教諭一種+特別支援学校教諭一種																								
パターン1: 下級生と一緒に特別支援の授業を受ける		1年生		2年生		3年生		4年生		計																
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期															
教養教育課程	卒業必修									キャリアトレーニング	1		1													
	2単位以上卒業必修							心理学	2	音楽	2		11													
	2単位以上卒業必修							食の健康科学	2	食の健康科学	2															
	2単位以上卒業必修							子どもと環境	1	日本語表現Ⅱ	2		0													
	2単位以上卒業必修												0													
専門教育課程	教育・保育の探求	単位変換 こども教育学部 教養: 10単位まで 専門: 52単位まで												保育ICT演習	1	卒業研究・卒業論文	1	6								
	教育・保育の知識・技能																	保育・幼児教育研究Ⅰ	1	保育・幼児教育研究Ⅱ	1	保育・幼児教育研究Ⅲ	1	保育・幼児教育研究Ⅳ	1	
	子育て支援																	教育相談	2	教育方法論Ⅱ	1					
	教育・保育の連携・協働																	保育内容—造形表現	1	複合領域の指導法Ⅰ	2	複合領域の指導法Ⅱ	2	器楽Ⅰ	1	23
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																	健康の指導法	2	食育論	2	器楽Ⅱ	1	器楽Ⅲ	1	
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																	環境の指導法	2	言葉の指導法	2	器楽Ⅳ	1	身体表現	1	
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																	言葉の指導法	2	人間関係の指導法	2					
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																	人間関係の指導法	2							
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																									
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																									
必修								14	5	4	2		25													
幼免+保育士必修													0													
幼免必修													0													
保育士必修													0													
特支必修								6	8	2	7		23													
選択								5	8	14	3		30													
合計								25	21	20	12		78													
46 32																										

旧																										
幼・保・特支免を取る場合【履修モデル】 事例②(編入学)		取得できる学位及び資格: 学士(教育学)+幼稚園教諭一種+特別支援学校教諭一種																								
パターン1: 下級生と一緒に特別支援の授業を受ける		1年生		2年生		3年生		4年生		計																
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期															
教養教育課程	卒業必修									キャリアトレーニング	1		1													
	2単位以上卒業必修							心理学	2	音楽	2		11													
	2単位以上卒業必修							食の健康科学	2	食の健康科学	2															
	2単位以上卒業必修							子どもと環境	1	日本語表現Ⅱ	2		0													
	2単位以上卒業必修												0													
専門教育課程	教育・保育の探求	単位変換 こども教育学部 教養: 10単位まで 専門: 52単位まで												保育ICT演習	1	卒業研究・卒業論文	1	6								
	教育・保育の知識・技能																	保育・幼児教育研究Ⅰ	1	保育・幼児教育研究Ⅱ	1	保育・幼児教育研究Ⅲ	1	保育・幼児教育研究Ⅳ	1	
	子育て支援																	教育相談	2	教育方法論Ⅱ	1					
	教育・保育の連携・協働																	保育内容—造形表現	1	複合領域の指導法Ⅰ	2	複合領域の指導法Ⅱ	2	器楽Ⅰ	1	23
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																	健康の指導法	2	食育論	2	器楽Ⅱ	1	器楽Ⅲ	1	
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																	環境の指導法	2	言葉の指導法	2	器楽Ⅳ	1	身体表現	1	
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																	言葉の指導法	2	人間関係の指導法	2					
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																	人間関係の指導法	2							
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																									
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助																									
必修								10	5	2	2		19													
幼免+保育士必修													0													
幼免必修													0													
保育士必修													0													
特支必修								10	6	4	7		27													
選択								7	8	14	3		32													
合計								27	19	20	12		78													
27 19 20 12																										

(是正事項) こども教育学部こども教育学科

3. アドミッション・ポリシー(1)において「子どもを愛し、子どもの最善の利益を守り、高い倫理観・使命感・責任感を持って子どもの保育を行いたいと考える」を掲げているが、大学入学者共通テスト利用選抜においては「書類審査」がどのような書類によって判断するか不明確であり、仮に高等学校等の調査書のみであった場合は、アドミッション・ポリシー(1)に掲げる意思や態度を適切に判断できるかについて疑義がある。大学入学者共通テスト利用選抜における確認方法を含めて、各入試区分におけるアドミッション・ポリシー(1)の確認方法について具体的に説明すること。

(対応)

入学者選抜においては能力・意欲・適性等の判定にあたり、アドミッション・ポリシーに基づき、学力を構成する三つの要素を適切に把握するようにと定められている。新設学部においても、入学後の教育との関連を十分に踏まえ、うたえで意思や態度を適切に判断できる確認方法を実施するものとしている。

新設学部のアドミッション・ポリシー(1)において、求める学生像として、「子どもを愛し、子どもの最善の利益を守り、高い倫理観・使命感・責任感を持って子どもの保育を行いたいと考える」と抽象的な表記をしている。しかし、提出した文書中には、意思や態度をどのような方法によって適切に判断し、評価・判定するかについての記載を入学者選抜の文中に明確に規定していなかったため、大学入学者共通テスト利用選抜における確認方法を含めて、各入試区分におけるアドミッション・ポリシー(1)の確認方法について具体的な記載となるように追記した。

確認方法 入学志願者本人の記載する資料(「大学入学志望理由書」)の活用

「書類審査」における「調査書」については入学志願者から入学者選抜の資料として、在籍する高等学校が高等学校生徒指導要領に基づき作成した調査書の提出を受け、十分に活用するものとしているが、調査書の「7. 指導上参考となる諸事項」を含め、アドミッション・ポリシー(1)に掲げる意思や態度を適切に判断するための記載はなされていない。

このため「書類審査」において、「調査書」以外に徴求する入学志願者本人の記載する資料(「大学入学志望理由書」)の活用によりアドミッション・ポリシー(1)に掲げる意思や態度を適切に判断するとともに、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定するものとする。

「大学入学志望理由書」には以下の内容を盛り込むものとし、入学者選抜においてどのように活用するのかについて募集要項に明記する。

- ① アドミッション・ポリシー(1)に掲げる「子どもを愛し、子どもの最善の利益を守り、高い倫理観・使命感・責任感を持って子どもの保育を行いたいと考える」意思やその理由などを記述式にて記載する。
- ② 高等学校までの学習や活動の履歴が把握できるようにするため、学校の内外で意欲的に取り組んだ活動(生徒会活動、部活動、ボランティア活動、資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育活動を実施する学校における学習活動等)を記載する。
- ③ 入学希望理由や入学後に学びたい内容・計画、大学卒業後を見据えた目標等を記載する。

各入試区分におけるアドミッション・ポリシー（1）の確認方法についての具体的説明

【一般選抜】

入学者の選抜は、学力検査（国語・外国語（英語）、書類審査（調査書、大学入学志望理由書）及び面接試験により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【共通テスト利用型選抜】

入学者の選抜は、学力検査（大学入学共通テスト（国語・外国語（英語））、書類審査（調査書、大学入学志望理由書）により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【学校推薦型選抜】

入学者の選抜は、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力判断力・表現力を適切に評価するために、小論文や高等学校の学修成績の状況など書類審査（調査書、出身高等学校長の推薦書、大学入学志望理由書等）及び面接試験により入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【総合型選抜】

入学者の選抜は、詳細な書類審査（調査書、自己申告書、大学入学志望理由書）と時間をかけた丁寧な面接や模擬授業等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性或学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する。幼児教育・保育者の養成を趣旨とする学部であるため当該職業分野を目指すことに関する入学志願者の意欲・適性等を重視する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【社会人選抜】

入学者の選抜は、2年以上の社会人経験を有する者を対象に小論文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適性或意欲、基礎学力を多面的・総合的に評価・判定する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【外国人留学生選抜】

入学者の選抜は、作文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適正や意欲、基礎学力等を多面的・総合的に評価・判定する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【編入学選抜】

入学者の選抜は、小論文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適性或意欲、基礎学力を多面的・総合的に評価・判定する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

新	旧
<p>1 設置の趣旨及び必要性 (略)</p> <p>(4) 教育の理念と学修成果の検証 (略)</p> <p>オ 入学者の受け入れ方針 (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜では、国語、英語の記述式試験、調査書、<u>大学入学志望理由書</u>及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 なお、英語について、4 技能を測る外部検定試験を利用する場合は、記述式試験の得点と比較し、高得点の方を採用します。 ・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語、外国語の筆記試験、<u>調査書</u>、<u>大学入学志望理由書</u>において、知識・技能、思考力・判断力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・学校推薦型選抜では、小論文、<u>調査書</u>、<u>大学入学志望理由書</u>、<u>推薦書</u>及び面接において適性や意欲、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・総合型選抜では、<u>体験授業</u>、<u>調査書</u>、<u>自己申告書</u>、<u>大学入学志望理由書</u>及び<u>面接等</u>において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を多面的・総合的に評価し選抜します。 ・総合型選抜（自己推薦型）では、<u>体験授業</u>、<u>調査書</u>、<u>自己推薦書</u>、<u>大学入学志望理由書</u>及び<u>面接等</u>において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等多面的・総合的に評価し選抜します。 ・編入学選抜では、小論文、<u>大学入学志望理由書</u>及び面接において、知識・技能、思考力・判断 	<p>1 設置の趣旨及び必要性 (略)</p> <p>(4) 教育の理念と学修成果の検証 (略)</p> <p>エ 入学者の受け入れ方針 (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜では、国語、英語の記述式試験、調査書及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 なお、英語について、4 技能を測る外部検定試験を利用する場合は、記述式試験の得点と比較し、高得点の方を採用します。 ・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語、外国語の筆記試験及び調査書において、知識・技能、思考力・判断力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・学校推薦型選抜では、小論文、<u>調査書</u>、<u>推薦書</u>及び面接において適性や意欲、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・総合型選抜では、<u>体験授業</u>、<u>面接</u>、<u>自己申告書</u>等及び<u>調査書</u>において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を多面的・総合的に評価し選抜します。 ・総合型選抜（自己推薦型）では、<u>体験授業</u>、<u>面接</u>、<u>自己推薦書</u>及び<u>調査書</u>等において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等多面的・総合的に評価し選抜します。 ・編入学選抜では、小論文及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体性

<p>力・表現力及び主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人選抜では、2年以上の社会人経験を有する者を対象に、<u>小論文、大学入学志望理由書</u>及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び基礎学力と共に、社会人としての経験や実績に基づき主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・外国人留学生選抜では、<u>作文、大学入学志望理由書</u>及び面接において、基礎学力や基本的な日本語能力及び日本で学習する意欲や適性、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 <p>カ 学修成果の検証</p>	<p>を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人選抜では、2年以上の社会人経験を有する者を対象に、小論文及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び基礎学力と共に、社会人としての経験や実績に基づき主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・外国人留学生選抜では、作文及び面接において、基礎学力や基本的な日本語能力及び日本で学習する意欲や適性、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 <p>オ 学修成果の検証</p>
<p>10 入学者選抜の概要 (略)</p> <p>ア 入学者受け入の方針 (アドミッション・ポリシー) (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜では、国語、英語の記述式試験、<u>調査書、大学入学志望理由書</u>及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 なお、英語について、4 技能を測る外部検定試験を利用する場合は、記述式試験の得点と比較し、高得点の方を採用します。 ・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語、外国語の筆記試験、<u>調査書、大学入学志望理由書</u>において、知識・技能、思考力・判断力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・学校推薦型選抜では、小論文、<u>調査書、大学入学志望理由書、推薦書</u>及び面接において適性や意欲、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 	<p>10 入学者選抜の概要 (略)</p> <p>ア 入学者受け入の方針 (アドミッション・ポリシー) (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜では、国語、英語の記述式試験、<u>調査書及び面接</u>において、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 なお、英語について、4 技能を測る外部検定試験を利用する場合は、記述式試験の得点と比較し、高得点の方を採用します。 ・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語、外国語の筆記試験及び<u>調査書</u>において、知識・技能、思考力・判断力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・学校推薦型選抜では、小論文、<u>調査書、推薦書</u>及び面接において適性や意欲、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。

- ・総合型選抜では、体験授業、調査書、自己申告書、大学入学志望理由書及び面接等、において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を多面的・総合的に評価し選抜します。
- ・総合型選抜（自己推薦型）では、体験授業、調査書、自己推薦書、大学入学志望理由書及び面接等において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等多面的・総合的に評価し選抜します。
- ・編入学選抜では、小論文、大学入学志望理由書及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。
- ・社会人選抜では、2年以上の社会人経験を有する者を対象に、小論文、大学入学志望理由書及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び基礎学力と共に、社会人としての経験や実績に基づき主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。
- ・外国人留学生選抜では、作文、大学入学志望理由書及び面接において、基礎学力や基本的な日本語能力及び日本で学習する意欲や適性、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。

イ 募集人員・選抜方法等

入学者選抜においては能力・意欲・適性等の判定にあたり、アドミッション・ポリシーに基づき、学力を構成する三つの要素を適切に把握するため、入学後の教育との関連を十分に踏まえたうえで意思や態度を適切に判断するための確認方法及びどのような基準・方法によって適切に評価・判定するか入試区分ごとの評価・判定の基準を示し、募集要項に記す。

各入試区分、選抜概要及び募集人員は次のと

- ・総合型選抜では、体験授業、面接、自己申告書等及び調査書において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を多面的・総合的に評価し選抜します。
- ・総合型選抜（自己推薦型）では、体験授業、面接、自己推薦書及び調査書等において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等多面的・総合的に評価し選抜します。
- ・編入学選抜では、小論文及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。
- ・社会人選抜では、2年以上の社会人経験を有する者を対象に、小論文及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び基礎学力と共に、社会人としての経験や実績に基づき主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。
- ・外国人留学生選抜では、作文及び面接において、基礎学力や基本的な日本語能力及び日本で学習する意欲や適性、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。

イ 募集人員・選抜方法等

(新設)

各入試区分、選抜概要及び募集人員は次のと

おりとしている。			おりとしている。		
入試区分	選抜概要	募集人員	入試区分	選抜概要	募集人員
一般選抜	<p>入学者の選抜は、<u>学力検査（国語・外国語（英語）、書類審査（調査書、大学入学志望理由書）及び面接試験により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求め</u>るものとする。</p>	10名	一般選抜	<p>学力試験（国語・外国語（英語））、書類審査（調査書）面接試験（面接）により入学志願者の学習能力を多面的・総合的に評価・判定する</p>	10名
大学入学共通テスト利用選抜	<p>入学者の選抜は、<u>学力検査（大学入学共通テスト（国語・外国語（英語））、書類審査（調査書、大学入学志望理由書）により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求め</u>るものとする。</p>	15名	大学入学共通テスト利用選抜	<p>大学入学共通テスト（国語・外国語（英語））及び書類審査（により入学志願者の学習能力を多面的・総合的に評価・判定する</p>	15名
学校推薦型選抜	<p>入学者の選抜は、<u>大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力判断力・表現力を適切に評価するために、小論文や高等学校の学修成績の状況など書類審査（調査書、出身高等学校長の推薦書、大学入学志望理由書等）及び面接試験により入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求め</u>るものとする。</p>	30名	学校推薦型選抜	<p>小論文や出身高等学校長の推薦書等の書類審査及び面接審査により入学志願者の適性や意欲、学習能力を多面的・総合的に評価・判定する</p>	30名

総合型選抜	<p>入学者の選抜は、<u>詳細な書類審査（調査書、自己申告書、大学入学志望理由書）と時間をかけた丁寧な面接や模擬授業等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する。幼児教育・保育者の養成を趣旨とする学部であるため当該職業分野を目指すことに関する入学志願者の意欲・適性等を重視する。</u></p> <p>なお、<u>大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。</u></p>	15名	総合型選抜	<p>自己申告書・調査書等の書類審査、体験授業受講感想文及び面接審査により入学志願者の能力・適性や学習に対する態度、目的意識等を総合的に評価・判定する。</p>	15名
社会人選抜	<p>入学者の選抜は、<u>2年以上の社会人経験を有する者を対象に小論文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適性や意欲、基礎学力を多面的・総合的に評価・判定する。</u>なお、<u>大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。</u></p>	若干名	社会人選抜	<p>2年以上の社会人経験を有する者を対象に小論文や面接審査により入学志願者の適性や意欲、学習能力を多面的・総合的に評価・判定する</p>	若干名
外国人留学生選抜	<p>入学者の選抜は、<u>作文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適正や意欲、基礎学力等を多面的・総合的に評価・判定する。</u>なお、<u>大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。</u></p>	若干名	外国人留学生選抜	<p>作文や面接審査により入学希望者の基礎学力や意欲を多面的・総合的に評価・判定する</p>	若干名
編入学選抜（令	<p>入学者の選抜は、<u>小論文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適性や意欲、基礎学力を多面的・総合的</u></p>	5名	編入学選抜（令	<p>小論文や面接審査により入学志願者の適性や意欲、学習能力を多面的・総合的に評価・判定する</p>	5名

和7 年度 よ り)	に評価・判定する。なお、大学 入学志望理由書には入学志願 者の意思や態度を適切に判断 できるための記述を求めるも のとする。		和7 年度 よ り)		
---------------------	--	--	---------------------	--	--

(是正事項) こども教育学部こども教育学科

4. 定員充足の根拠となる客観的なデータとして申請段階における業者アンケート調査に基づいて「受験したいと思う」と回答した者のうち、本学に「入学したい」と回答した者の数を示しているが、回答者の高校卒業後の希望進路や興味のある学問についてクロス集計がなされておらず、回答者の入学見込みについて適切に分析したものと判断できない。また、当該調査の対象者を踏まえると、複数の大学等を併願することが一般的に想定されるが、調査票の選択肢は併願先を踏まえた入学意向を確認できるものとなっておらず、定員充足の根拠となる客観的なデータが適切に示されているとは判断できない。回答者の進路希望や興味のある学問分野、併願状況を踏まえて適切にクロス集計し、分析されたデータを改めて示すなど、定員充足の根拠となる客観的なデータを基に改めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

入学定員充足の見通しがあることについて、客観的根拠となるデータから検証することを目的として、「企画・計画段階でのアンケート調査（令和元年度）」及び「申請段階の高校生アンケート調査（令和3年度）」と、2回のアンケート調査を実施している。しかし、申請に際しては回答者の進路希望や興味のある学問分野、併願状況を踏まえたクロス集計等を明確に示していなかったため、あらためて集計したデータを示し、定員充足の根拠を追記する。

(ア) 高校生アンケート調査に関し、回答者の進路希望や興味ある学問分野、併願状況等を踏まえ、適切に分析を行うためクロス集計を行い、以下の項目をすべて満たした入学意向者数を検証した。

回答者数 4,004 人（一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人）

問1（進路希望）で「私立大学に進学」を希望している者

問2（興味・関心のある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者

問3（本学への興味）で「とても魅力を感じる」等を選択した者

問4（受験意向）で「受験したいと思う」を選択した者、

問5（入学意向）で「入学したいと思う」を選択した者

クロス集計表1（私立大学に進学を希望している者の内の入学意向者数）

	質 問 事 項	高校生アンケート調査（併設校除く）	高校生アンケート調査（併設校のみ）	合計数
問	調 査 数	3,822	182	4,004
1	（進路希望）で「私立大学に進学」を希望している者	1,147	84	1,231
2	且つ（興味関心がある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者	307	28	335
3	且つ（本学への興味）で「とても興味を感じる」等を選択した者（回答①及	152	26	178

	び②)			
4	且つ(受験意向)で「受験したいと思う」を選択した者	76	22	98
5	且つ(入学意向)で「入学したいと思う」を選択した者	70	20	90

上記集計の結果、回答者(一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人)の内、問 1 から問 5 までの全てを満たすものが 90 人となり、入学定員数(70 人)を上回っていることから、定員を充足できる見通しがある。

また、上記質問の問 1 から問 4 (進路希望で「私立大学に進学」を希望し、かつ、興味関心のある分野で「保育・教育学・教員養成」を選択し、かつ、本学への興味で「とても魅力を感じる」等を選択し、かつ、受験意向で「受験したいと思う」を選択した者)までを選択した者で、問 5 で「入学したいと思わない」ものを選択した者(8 人)を、本学以外の私立大学の保育者養成校への入学を希望する者(併願意向有)と想定した場合(併願意向を持つ回答者を除いた状況)において定員を充足できる見通しがある。

(イ) 進路希望で「国公立大学に進学」を希望している者(本学は併願校)の入学意向者についても、私立大学に進学を希望するとした集計と同様に、以下の項目をすべて満たした入学希望者をクロス集計した。

回答者数 4,004 人(一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人)

問 1 (進路希望)で「国公立大学に進学」を希望している者

問 2 (興味・関心のある分野)で「保育・教育学・教員養成」を選択した者

問 3 (本学への興味)で「とても魅力を感じる」等を選択した者

問 4 (受験意向)で「受験したいと思う」を選択した者、

問 5 (入学意向)で「入学したいと思う」を選択した者

クロス集計表 2 (国公立大学に進学を希望している者の内の入学意向者数)

	質問事項	高校生アンケート調査(併設校除く)	高校生アンケート調査(併設校のみ)	合計数
問	調査数	3,822	182	4,004
1	(進路希望)で「 <u>国公立大学</u> に進学」を希望している者	1,443	33	1,476
2	且つ(興味関心がある分野)で「保育・教育学・教員養成」を選択した者	377	5	382
3	且つ(本学への興味)で「とても興味を感じる」等を選択した者(回答①及び②)	180	4	184

4	且つ（受験意向）で「受験したいと思う」を選択した者	64	3	67
5	且つ（入学意向）で「入学したいと思う」を選択した者	58	3	61

上記集計の結果、回答者（一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人）の内 61 人が国公立大学に進学を希望しつつ本学への入学意向も示している。また、ことから、これらの回答者は国公立大学に進学を希望する回答者においても併願校として本学を受験し、一定の数の入学者が発生することが想定されることから入学定員 70 人を充足するものとする。

上記調査時の熊本県内の高校 2 年女子生徒数は 7,067 人（令和 3 年度 文部科学省学校基本調査）であり、高校生アンケート調査の対象数（4,004 人）が県内全体の一部（約 6 割）であることを考慮した場合、高校生アンケートの対象者外から本学への入学意向を示す者が相当数発生するものと思料する。

【資料 4-1 調査対象高校一覧】

【資料 4-2 設置に関するニーズ調査リーフレット】

【資料 4-3 設置に関するニーズ調査報告書（高校生）】

（ウ）企画・計画段階（令和元年度）において、県内高校 1・2 年生の女性を対象としたアンケート調査を実施し、集計を行っている。

高校 1 年生を対象としたアンケートにおいて、「尚綱大学新学部に進学したい」者が 51 人（4.0%）であった。調査対象カバー率が 17.1%（調査回答数 1,280 人／熊本県内の高校 1 年生の女性生徒数 7,506 人）であることを勘案した場合、「尚綱大学新学部に進学したい」とするものが入学定員を充足すると推計できる。

【資料 4-4 企画段階アンケート（1 年生）】

高校 2 年生を対象としたアンケートにおいて、「尚綱大学新学部に進学したい」者が 46 人（3.9%）であった。調査対象カバー率が 15.8%（調査回答数 1,187 人／県内高校の高校 2 年生の女性生徒数 7,488 人）であるところを勘案した場合、「尚綱大学新学部に進学したい」とするものが入学定員を充足すると推計できる。

【資料 4-5 企画段階アンケート（2 年生）】

定員充足の根拠として実施した調査時期及び調査方法の異なる 2 回のアンケート調査（「企画・計画段階アンケート調査（令和元年度）」と「高校生アンケート調査」（申請段階 令和 3 年度））結果及びアンケート回答者の進路希望や興味のある学問分野、併願状況を踏まえたクロス集計の結果、学部においては入学定員数（70 人）を充足できる見通しはあるものとする。

（新旧対照表）「学生の確保の見通し等を記載した書類」（6-8 ページ）

新	旧
---	---

(3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(略)

③申請段階における業者アンケート調査の結果

(略)

【資料 2-7 設置に関するニーズ調査リーフレット】

【資料 2-8 設置に関するニーズ調査報告書（高校生）】

【資料 2-9 調査対象高校一覧】

（ア）高校生アンケート調査に関し、回答者の進路希望や興味ある学問分野、併願状況等を踏まえ、適切に分析を行うためクロス集計を行い、以下の項目をすべて満たした入学意向者数を検証した。

回答者数 4,004 人（一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人）

問 1（進路希望）で「私立大学に進学」を希望している者

問 2（興味・関心のある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者

問 3（本学への興味）で「とても魅力を感じる」等を選択した者

問 4（受験意向）で「受験したいと思う」を選択した者、

問 5（入学意向）で「入学したいと思う」を選択した者

クロス集計表 1（私立大学に進学を希望している者の内の入学意向者数）

	質問事項	高校生アンケート調査（併設校除く）	高校生アンケート調査（併設校のみ）	合計数
問	調査数	3,822	182	4,004
1	（進路希望）で「私立大学に進学」を希望	1,147	84	1,231

(3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(略)

③申請段階における業者アンケート調査の結果

(略)

【資料 2-7 設置に関するニーズ調査リーフレット】

【資料 2-8 設置に関するニーズ調査報告書（高校生）】

学生の確保を図ることができる見通しがあることについて、本学独自による企画・計画段階での調査アンケート及び専門の調査機関による申請準備段階でのアンケート調査（受験意向・入学意向調査）を行った結果として、学生確保においては十分な見通しがあるものと考えられる。

	している者			
2	且つ（興味 関心がある 分野）で「保 育・教育学・ 教員養成」 を選択した 者	307	28	335
3	且つ（本学 への興味） で「とても 興味を感じ る」等を選 択した者 （回答①及 び②）	152	26	178
4	且つ（受験 意向）で「受 験したいと 思う」を選 択した者	76	22	98
5	且つ（入学 意向）で「入 学したいと 思う」を選 択した者	70	20	90

上記集計の結果、回答者（一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人）の内、問 1 から問 5 までの全てを満たすものが 90 人となり、入学定員数（70 人）を上回っていることから、定員を充足できる見通しがある。

また、上記質問の問 1 から問 4（進路希望で「私立大学に進学」を希望し、かつ、興味関心のある分野で「保育・教育学・教員養成」を選択し、かつ、本学への興味で「とても魅力を感じる」等を選択し、かつ、受験意向で「受験したいと思う」を選択した者）までを選択した者で、問 5 で「入学したいと思わない」ものを選択した者（8 人）を、本学以外の私立大学の保育者養成校への入学を希望する者（併願意向有）と想定した場合（併願意向を持つ回答者を除いた状況）において定員を充足できる見通しがある。

（イ）進路希望で「国公立大学に進学」を希望し

ている者（本学は併願校）の入学意向者についても、私立大学に進学を希望するとした集計と同様に、以下の項目をすべて満たした入学希望者をクロス集計した。

回答者数 4,004 人（一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人）

問 1（進路希望）で「国公立大学に進学」を希望している者

問 2（興味・関心のある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者

問 3（本学への興味）で「とても魅力を感じる」等を選択した者

問 4（受験意向）で「受験したいと思う」を選択した者、

問 5（入学意向）で「入学したいと思う」を選択した者

クロス集計表 2（国公立大学に進学を希望している者の内の入学意向者数）

	質問事項	高校生アンケート調査（併設校除く）	高校生アンケート調査（併設校のみ）	合計数
問	調査数	3,822	182	4,004
1	（進路希望）で「国公立大学に進学」を希望している者	1,443	33	1,476
2	且つ（興味関心がある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者	377	5	382
3	且つ（本学への興味）で「とても興味を感じる」等を選択した者（回答①及	180	4	184

	び②			
4	且つ(受験意向)で「受験したいと思う」を選択した者	64	3	67
5	且つ(入学意向)で「入学したいと思う」を選択した者	58	3	61

上記集計の結果、回答者(一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人)の内 61 人が国公立大学に進学を希望しつつ本学への入学意向も示している。また、ことから、これらの回答者は国公立大学に進学を希望する回答者においても併願校として本学を受験し、一定の数の入学者が発生することが想定されることから入学定員 70 人を充足するものとする。

上記調査時の熊本県内の高校 2 年女子生徒数は 7,067 人(令和 3 年度 文部科学省学校基本調査)であり、高校生アンケート調査の対象数(4,004 人)が県内全体の一部(約 6 割)であることを考慮した場合、高校生アンケートの対象者外から本学への入学意向を示す者が相当数発生するものと思料する。

定員充足の根拠として実施した調査時期及び調査方法の異なる 2 回のアンケート調査(「企画・計画段階アンケート調査(令和元年度)」と「高校生アンケート調査(申請段階 令和 3 年度)」)結果及びアンケート回答者の進路希望や興味のある学問分野、併願状況を踏まえたクロス集計の結果、学部においては入学定員数(70 人)を充足できる見通しはあるものとする。

「こども教育学部こども教育学科」(仮称) 設置に関する一斉調査 調査対象高校一覧

NO	県名	高校名	住所	有効回収数
1	熊本	熊本県立済々黌高等学校	熊本県熊本市中央区黒髪2-22-1	44
2	熊本	熊本県立第一高等学校	熊本県熊本市中央区古城町3-1	111
3	熊本	熊本県立第二高等学校	熊本県熊本市東区東町3-13-1	178
4	熊本	熊本県立熊本西高等学校	熊本県熊本市西区城山大塘五丁目5-15	84
5	熊本	熊本県立熊本工業高等学校	熊本県熊本市中央区上京塚町5-1	111
6	熊本	熊本県立熊本商業高等学校	熊本県熊本市中央区神水1-1-2	105
7	熊本	熊本県立熊本農業高等学校	熊本県熊本市南区元三町5-1-1	116
8	熊本	熊本県立岱志高等学校	熊本県荒尾市荒尾2620-1	19
9	熊本	熊本県立玉名高等学校	熊本県玉名市中1853	59
10	熊本	熊本県立北稜高等学校	熊本県玉名市立願寺247	54
11	熊本	熊本県立鹿本高等学校	熊本県山鹿市鹿校通3-5-1	80
12	熊本	熊本県立菊池高等学校	熊本県菊池市隈府1332-1	43
13	熊本	熊本県立大津高等学校	熊本県菊池郡大津町大津1340	74
14	熊本	熊本県立御船高等学校	熊本県上益城郡御船町木倉1253	65
15	熊本	熊本県立矢部高等学校	熊本県上益城郡山都町城平954	11
16	熊本	熊本県立宇土高等学校	熊本県宇土市古城町63	62
17	熊本	熊本県立松橋高等学校	熊本県宇城市松橋町久具300	9
18	熊本	熊本県立八代高等学校	熊本県八代市永碓町856	122
19	熊本	熊本県立八代東高等学校	熊本県八代市鷹辻町4-2	44
20	熊本	熊本県立八代清流高等学校	熊本県八代市渡町松上1576	48
21	熊本	熊本県立水俣高等学校	熊本県水俣市洗切町11-1	17
22	熊本	熊本県立人吉高等学校	熊本県人吉市北泉田町350	158
23	熊本	熊本県立球磨中央高等学校	熊本県球磨郡錦町西192	84
24	熊本	熊本県立天草高等学校	熊本県天草市本渡町本渡557	34
25	熊本	熊本市立必由館高等学校	熊本県熊本市中央区坪井4-15-1	221
26	熊本	熊本市立千原台高等学校	熊本県熊本市西区島崎2-37-1	85
27	熊本	熊本県立湧心館高等学校全日制	熊本県熊本市中央区出水4-1-2	32
28	熊本	熊本県立湧心館高等学校通信制	熊本県熊本市中央区出水4-1-2	61
29	熊本	熊本県立熊本北高等学校	熊本県熊本市北区兎谷3-5-1	94
30	熊本	熊本県立東稜高等学校	熊本県熊本市東区小峯4-5-10	111
31	熊本	熊本県立阿蘇中央高等学校 阿蘇校舎	熊本県阿蘇市一の宮町宮地2460	36
32	熊本	熊本県立阿蘇中央高等学校 阿蘇清峰校舎	熊本県阿蘇市一の宮町宮地4131	22
33	熊本	熊本県立上天草高等学校	熊本県上天草市大矢野町中5424	11
34	熊本	熊本信愛女学院高等学校	熊本県熊本市中央区上林町3-18	108
35	熊本	八代白百合学園高等学校	熊本県八代市井上町727-1	79
36	熊本	玉名女子高等学校	熊本県玉名市岩崎1061	108
37	熊本	ルーテル学院高等学校	熊本県熊本市中央区黒髪3-12-16	224
38	熊本	熊本国府高等学校	熊本県熊本市中央区国府2-15-1	201
39	熊本	文徳高等学校	熊本県熊本市西区池田4-22-2	120
40	熊本	東海大学付属熊本星翔高等学校	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	167
41	熊本	専修大学玉名高等学校	熊本県玉名市岱明町野口1046	3
42	福岡	大牟田高等学校	福岡県大牟田市草木852	158
43	福岡	誠修高等学校	福岡県大牟田市田隈956	36
44	鹿児島	出水中央高等学校	鹿児島県出水市西出水町448番地	60
45	熊本	熊本中央高等学校	熊本県熊本市中央区内坪井町4-8	153

合計 3822

尚綱大学 こども教育学部こども教育学科 (仮称)

令和5(2023)年4月開設予定
(設置構想中)



SHOKEI

尚綱大学
尚綱大学短期大学部

記載の内容は、現在設置構想中であり、今後変更となる場合があります。
教職課程申請予定。文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる場合があります。
審査意見(6月) (資料)-2

保育の現場をリードする高い専門性と実践力を備えた保育者を養成 こども教育学部 こども教育学科(仮称)

近年、保育内容および保育者の質の向上、保育現場のリーダーの養成、保育サービスの多様化への対応などを背景に保育者を養成する4年制大学への期待が高まっています。

尚綱大学では、既に保育者の養成において高い評価をいただいている「短期大学部幼児教育学科」に加え、令和5(2023)年4月、武蔵ヶ丘キャンパスに保育現場をリードする高い専門性と実践力を備えた保育者を養成する4年制の新学部「こども教育学部(仮称)」の設置を計画しております。今後とも大学と短期大学部の2本の柱により保育の質的・量的ニーズに応えていきます。

新学部において養成する保育者像

1. 幼児教育および保育を構想・実践し、評価・改善を図る力を備えた保育者を養成する。
2. 特別な支援を必要とする子どもについて、専門的な知識に基づく実践力を身につけた保育者を養成する。
3. 保育者に期待される役割を理解し、家庭や地域社会との連携ができる保育者を養成する。
4. 幼児教育および保育の課題を発見し、解決に導くことができる研究力を持った保育者を養成する。



短期大学と4年制大学との違い

短期大学での学び

短期間(2年間)で保育者としての実践力を身につけ、即戦力として保育現場で活躍できる人材を養成します。

尚綱大学短期大学部幼児教育学科 (入学定員 ※100名)

- ・幼稚園教諭二種免許状
- ・保育士資格

を2年間で取得することができます。

(卒業時に4年制大学に編入学することも可能です)
※幼児教育学科の入学定員は、こども教育学部(仮称)の開設により、150名から100名に変更になります。

4年制大学での学び

4年間の時間をかけ、じっくりとした学びの中で、特別支援教育を含め、保育についての高い専門性と実践力を培い、将来の保育現場のリーダーとなる人材を養成します。

尚綱大学こども教育学部(仮称) (入学定員 70名) (3年次編入学定員 5名)

- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・保育士資格
- ・特別支援学校教諭一種免許状

を4年間で取得することができます。

編入学

幼稚園教諭一種免許状および二種免許状の違いについて

一種免許状取得のためには専門教育科目を中心に51単位(二種免許状は31単位)を履修することが必要とされています。一種免許状と二種免許状は指導可能な範囲に違いはありませんが、教育職員で二種免許状である者は、一種免許状への上進に努めなければならないことが規定されています。

尚綱大学こども教育学部(仮称)の特色

*尚綱大学は女子大です。

新学部「こども教育学部(仮称)」では、これからの幼児教育において必要とされる高い専門性や特別支援教育の指導力、家庭や社会と連携できる力、そして研究力を兼ね備えた、**高い実践力**を持った保育者を、**総合的な学び**の中で養成していきます。これは、既に保育者養成機関として「**保育は尚綱**」との高い評価をいただいている尚綱大学だからこそできる学びです。

(尚綱大学短期大学部幼児教育学科の就職内定率は99.3%。そのうち98.5%の学生が専門職〈幼稚園・保育所・認定こども園・施設〉に就職しています *令和2年3月卒業生実績)

あなたの「保育者になりたい」という夢の実現に応える学びの特色をご紹介します。

特色

1

ユニークなカリキュラムで 幼児教育の学びを深めます

幼児教育の5つの領域を組み合わせ、子どもの活動を理解し指導する方法や、特別な支援を必要とする子どもへの対応を学ぶ科目、また、本学の強みである「保育」と「食」の両面から子どもの成長と食との関わりを学ぶ科目など、本学ならではのユニークな科目を配置します。

5つの領域

健康

人間
関係

環境

言葉

表現

特色

2

これからの保育者に求められる 3つの資格を取得できます

幼稚園教諭一種免許状
保育士資格
特別支援学校教諭一種免許状

所定の単位を修得することにより、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格、特別支援学校教諭一種免許状(知的障害・肢体不自由・病弱)の3つの資格を取得することができます。特別支援学校教諭一種免許状を取得することにより、幼稚園等の幼児教育施設に加え、特別支援学校や児童発達支援センターなどの児童福祉施設においても専門性を生かした活躍が期待できます。

特色

3

豊富な実習経験により 高い実践力が身につきます

キャンパス内には附属こども園が併設されており、1年次から多くの園児と交流することにより、子どもを観察する力や必要に応じて支援する力を身につけることができます。

また、幼児教育施設や特別支援学校等における実習を通して身につけた高い実践力により、就職後の保育現場においては将来のリーダーとしての活躍が期待されます。

特色

4

自発的で深い学びにより 保育者としての研究力を高めます

「尚綱子育て研究センター」を中心に、教員と学生、現場で活躍する卒業生が一体となって幼児教育・保育の質の向上に向けた研究に取り組んでいます。

1年次にスタートする「基礎演習」から4年次まで、きめ細かな指導を受けることにより、就職後は、保育の現場において課題発見能力と解決能力を身につけた保育者として活躍することが期待されます。

記載の内容は、現在設置構想中であり、今後変更となる場合があります。
教職課程申請予定。文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる場合があります。

<設置概要>

- 名称：こども教育学部 こども教育学科(仮称)
- 修業年限：4年
- 開設時期：令和5(2023)年4月
- 入学定員：70名(予定) (3年次編入学定員5名)
- 取得学位：学士(教育学)
- 設置場所：尚綱大学 武蔵ヶ丘キャンパス(熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北2-8-1)

類似する近隣の大学・学部・学科

- 熊本学園大学 社会福祉学部 子ども家庭福祉学科
- 九州ルーテル学院大学 人文学部 人文学科 こども専攻
- 平成音楽大学 音楽学部 こども学科

納付金の比較(参考)

こども教育学部(仮称)

単位/円

区分	入学金	授業料	施設設備費	初年度合計
こども教育学科	220,000	670,000	220,000	1,110,000

国立大学/公立大学/私立大学

単位/円

区分	入学金	授業料	施設設備費	初年度合計
国立大学	282,000	535,800	※1	817,800
公立大学	392,111	536,382	※1	928,493
私立大学	228,262	793,513	150,807	1,172,582

国立大学……文部科学省「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」より

公立大学……文部科学省「2020年度学生納付金調査結果(平均値)」より

私立大学……文部科学省「令和元年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額(文科系学部)」より

※1…施設費、実習費、諸会費等が徴収される場合もあります。

独自の奨学金制度

(令和3年5月1日時点)

■入試奨学生(給付型奨学金)制度

全学部学科を対象に、奨学生選抜付入試合格者のうち、成績優秀にして本学に入学する学生に対する給付型奨学金制度があります。

■姉妹入学金減免制度

本学に姉妹が在学している場合、入学金の半額を免除します。同時に2人以上が入学した場合(例：双子等)も、2人目から入学金の半額を免除します。

■緊急的授業料免除制度

在学中に家庭の経済状況が急変し、授業料の支払いが困難となった学生に対し、申請・審査を経て授業料を免除します。

*上記以外にも本学独自の奨学金制度があります。また、「高等教育の修学支援新制度」など日本学生支援機構奨学金制度もあります。詳しくは、大学ホームページをご覧ください。

寮のご案内

武蔵ヶ丘キャンパスには、自宅から離れて暮らす学生のための寮「如蘭学寮」があります。また、九品寺キャンパスの近くには提携の学生寮もあります。

尚綱シャトルバスのご案内

武蔵ヶ丘キャンパス—九品寺キャンパス間、両キャンパス—最寄り駅の交通の利便性を高めるためにシャトルバスを運行しています。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部

▶現代文化学部/文化コミュニケーション学科 ▶生活科学部/栄養科学科

▶短期大学部/総合生活学科・食物栄養学科・幼児教育学科

武蔵ヶ丘キャンパス

〒861-8538 熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北2-8-1

<新学部設置準備室>

TEL:096-273-6333 FAX:096-338-9301

アクセス

◎JR:JR豊肥本線「武蔵塚」駅下車、徒歩20分

◎バス:熊本桜町バスターミナル17番乗り場 電鉄バス「C5」系統

北熊本、菊池、武蔵ヶ丘、光の森方面行き「尚綱大学前」下車、徒歩1分

◎タクシー:熊本桜町バスターミナルから約25分



◆尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」(仮称、設置構想中)についてお聞きします。

尚綱大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2023年(令和5年)4月に、「こども教育学部 こども教育学科」(仮称)の設置を構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3 尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
特色①	ユニークなカリキュラムで、幼児教育の学びを深めます。	→ ①	②	③	④
特色②	幼稚園教諭一種免許状、保育士資格、特別支援学校教諭一種免許状の、3つの資格を取得することができます。	→ ①	②	③	④
特色③	豊富な実習経験により、高い実践力が身につきます。	→ ①	②	③	④
特色④	自発的で深い学びにより、保育者としての研究力を高めます。	→ ①	②	③	④

Q4 あなたは、尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。 ※入試方式は問いません。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

- ① 受験したいと思う ② 受験したいと思わない

Q5 あなたは、尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」(仮称、設置構想中)に合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

- ① 入学したいと思う ② 入学したいと思わない

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

尚綱大学
「こども教育学部 こども教育学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和3年10月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2023年4月開設予定の尚絅大学「こども教育学部 こども教育学科」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		福岡県、熊本県、鹿児島県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	6,273人(51校)
	回収数	4,469人(45校) 回収率:71.2%
	有効回収数 (女性のみ)	3,822人(45校) 回収率:60.9%
調査時期		2021年6月28日(月)～2021年7月30日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
<ul style="list-style-type: none">・性別・高校種別・高校所在地・所属クラス・高校卒業後の希望進路・興味のある学問分野・尚絅大学「こども教育学部 こども教育学科」の特色に対する魅力度・尚絅大学「こども教育学部 こども教育学科」への受験意向・尚絅大学「こども教育学部 こども教育学科」への入学意向

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、尚綱大学の「こども教育学部 こども教育学科」に対する需要を確認するための調査として設計。尚綱大学の主な学生募集エリアである福岡県、熊本県、鹿児島県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、3,822人から回答を得た。

- 回答者の性別は、「女性」が100.0%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が62.9%、「私立」が37.1%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、尚綱大学の所在地である「熊本県」が93.4%を占め、最も多い。次に「福岡県」が5.1%、「鹿児島県」が1.6%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が33.4%で最も多い。次いで「その他」が28.2%、「コース選択はない」が18.1%と続く。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問分野

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」の割合が37.8%で最も高い。次いで「専門学校・専修学校に進学」が36.5%、「私立大学に進学」が30.0%と続く。私立大学への進学志望者も一定数いることから、尚綱大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、「こども教育学部 こども教育学科」の学びと関連する「保育・教育学・教員養成」が25.2%で最も高い。次いで「看護・保健学」が20.3%、「経済・経営・商学」が13.0%と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」の特色に対する魅力度

- 尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目において8割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「特色③豊富な実習経験により、高い実践力が身につきます。」(88.0%)である。

次に魅力度が高いのは、「特色②幼稚園教諭一種免許状、保育士資格、特別支援学校教諭一種免許状の、3つの資格を取得することができます。」(85.6%)、さらに「特色①ユニークなカリキュラムで、幼児教育の学びを深めます。」(83.5%)、「特色④自発的で深い学びにより、保育者としての研究力を高めます。」(82.9%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高校生対象 調査結果まとめ

尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」への受験意向・入学意向

- 尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、15.2% (3,822人中、**580人**)である。
- 尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」を「受験したいと思う」と答えた580人のうち、尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、93.1% (**540人**)である。

尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」への入学意向者数

※ここからは、尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は14.1% (**540人**)で、予定されている入学定員70人を大きく上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇高校所在地別

- 尚綱大学の所在地である「熊本県」の高校在籍者からの入学意向は14.3% (3,568人中、**509人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

◇高校種別

- 「公立」の高校在籍者からの入学意向は14.8% (2,405人中、**356人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。「私立」の高校在籍者からの入学意向は13.0% (1,417人中、**184人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「文系クラス(文系コース)」に所属している回答者の入学意向は15.7% (1,277人中、**200人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇高校卒業後の希望進路別

- 尚綱大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は15.8% (1,147人中、**181人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。また、「国公立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は11.4% (1,443人中、**164人**)、「短期大学に進学」を考えている回答者の入学意向は37.5% (451人中、**169人**)、「専門学校・専修学校に進学」を考えている回答者の入学意向は13.6% (1,394人中、**190人**)と、それぞれ予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。その他、「就職」を考えている回答者の入学意向は11.7% (707人中、**83人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。「私立大学に進学」以外の進路を考えている回答者からの入学意向も高くなっている。

◇興味のある学問分野別

- 尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」の学びと関連する「保育・教育学・教員養成」に興味がある回答者の入学意向は37.3% (962人中、**359人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。また、「看護・保健学」に興味がある回答者の入学意向は15.8% (774人中、**122人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」の特色に対する魅力度別

- 尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向は、いずれの特色でも16%を超えており、入学意向者数はすべて、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇(参考)高校卒業後の希望進路別×興味のある学問分野別

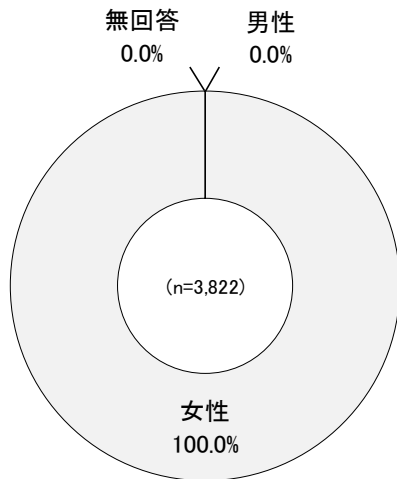
- 4年制大学進学希望者(「私立大学に進学」「国公立大学に進学」の少なくとも一方を考えている回答者)で、尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」の学びと関連する「保育・教育学・教員養成」に興味がある回答者の入学意向は33.0% (546人中、**180人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果

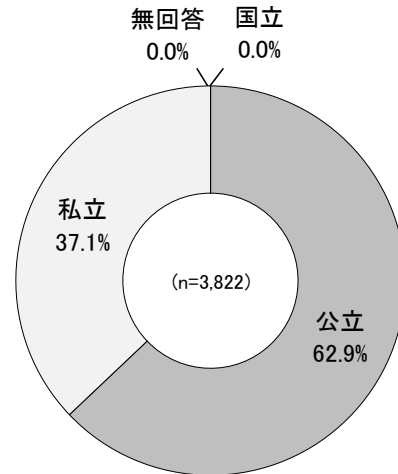


回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地/所属クラス)

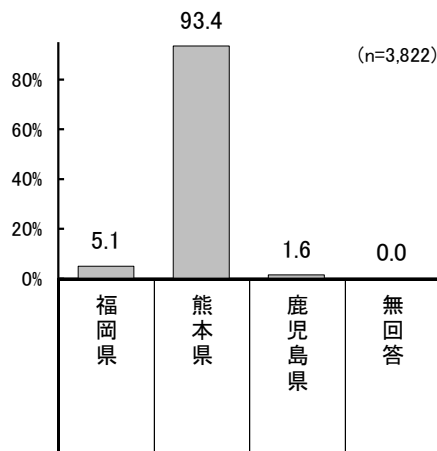
■性別



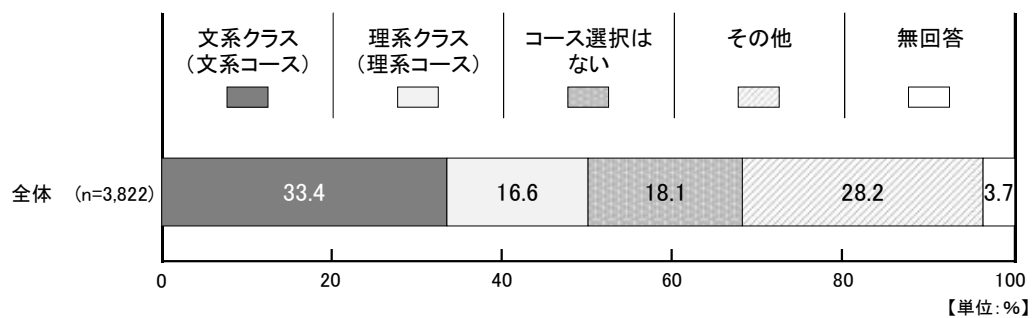
■高校種別



■高校所在地



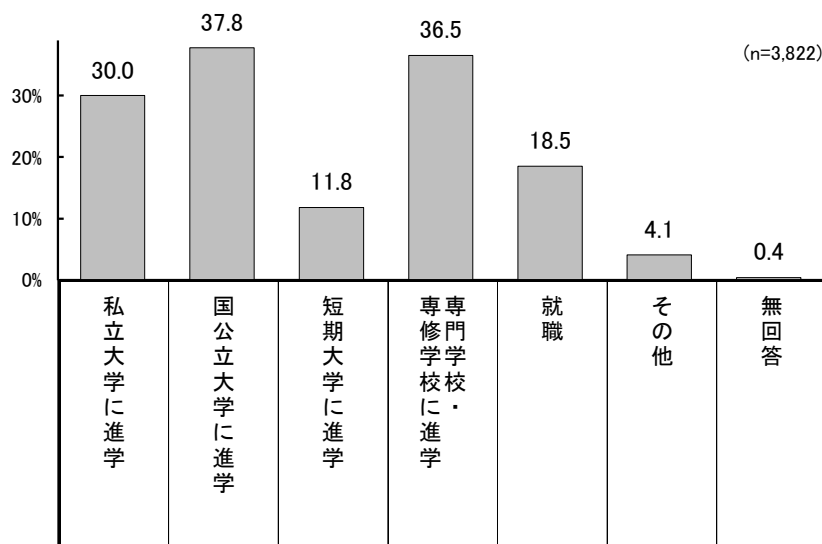
■所属クラス



高校卒業後の希望進路／興味のある学問分野

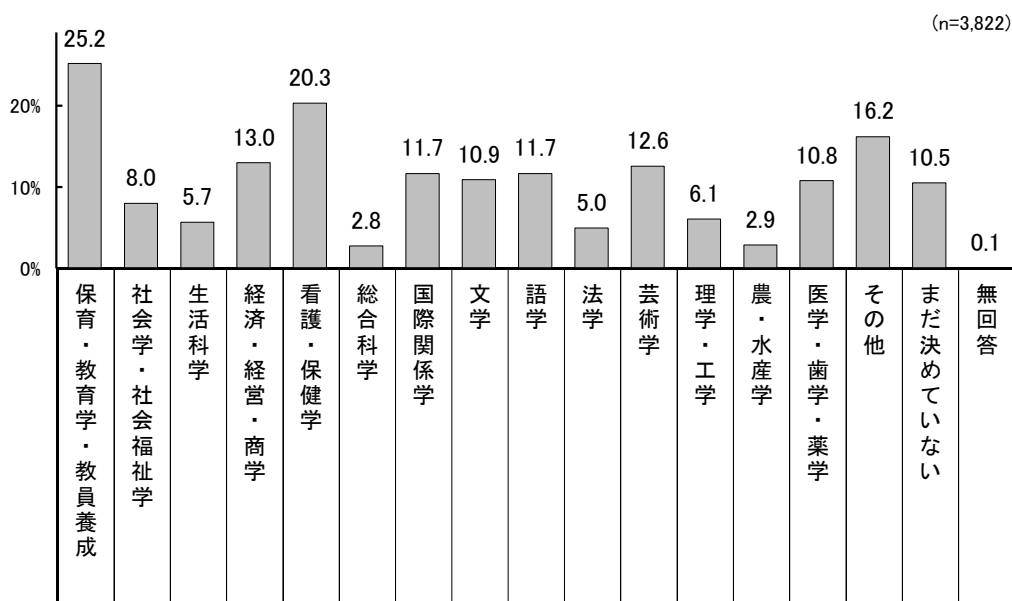
■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



■興味のある学問分野

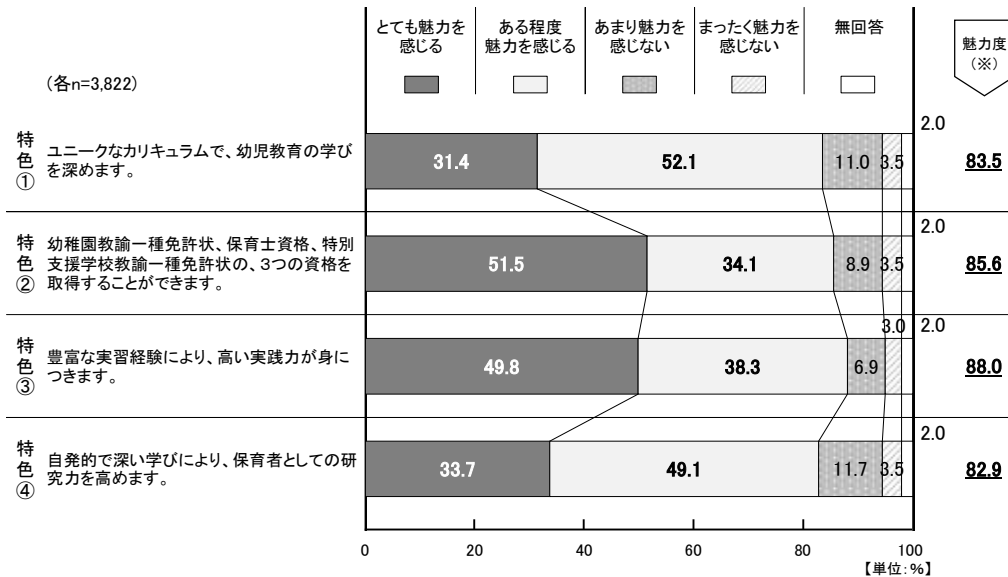
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問分野の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも) (現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」の特色に対する魅力度

■尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」の特色に対する魅力度

Q3. 尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



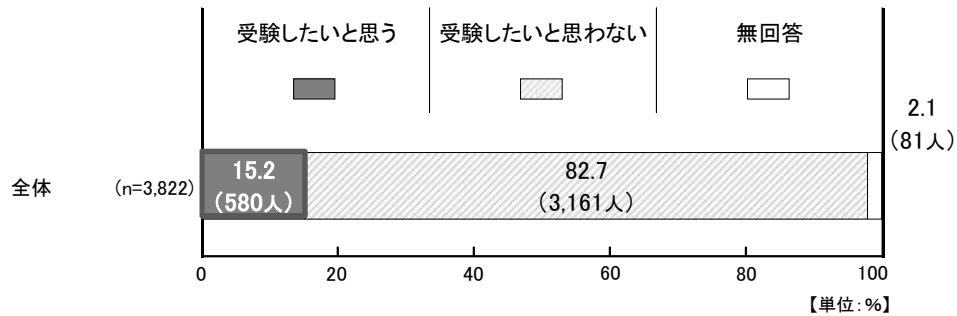
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」への 受験意向／入学意向／受験意向別入学意向

■尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」への受験意向

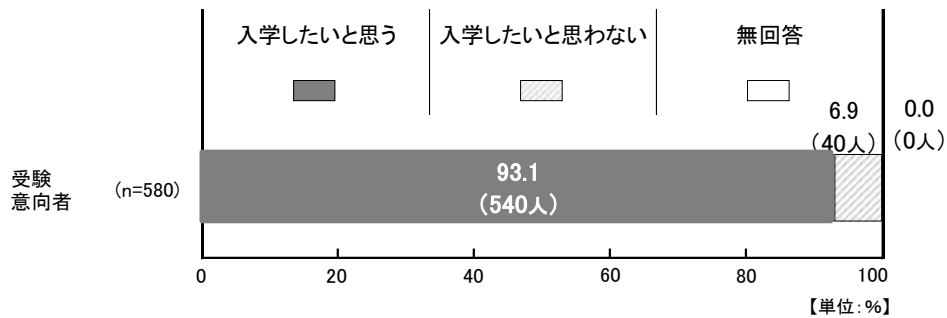
Q4. あなたは、尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。
※入試方式は問いません。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた580人のみ抽出

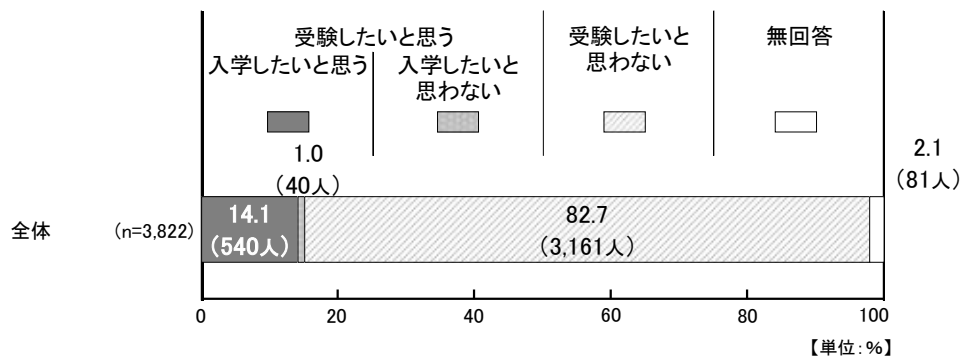
■尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」への入学意向

Q5. あなたは、尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」(仮称、設置構想中)に合格したら、入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

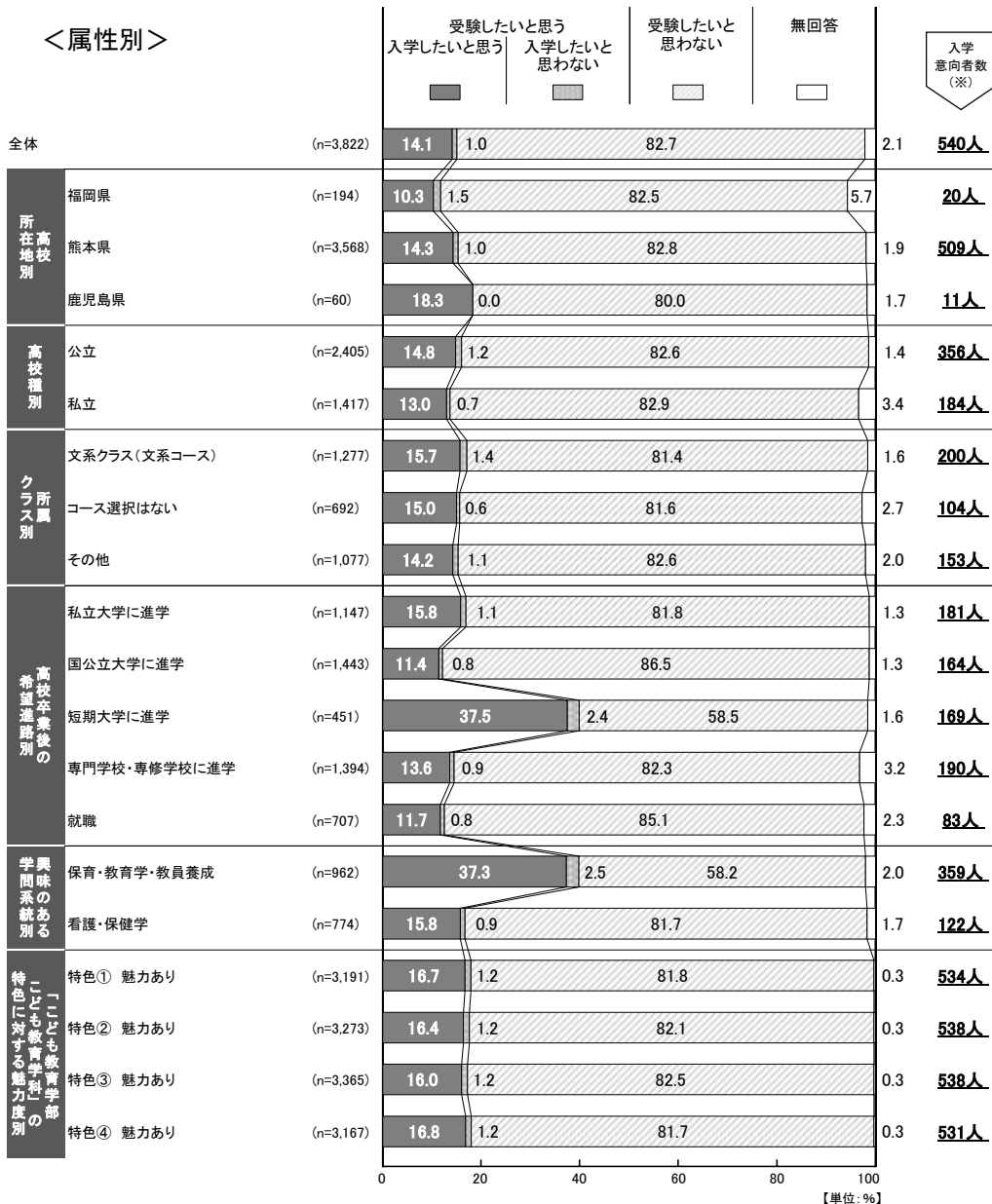
■尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」への受験意向別入学意向



尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」への 受験意向別入学意向<属性別>

■尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」への受験意向別入学意向 <属性別>

※尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」の入学意向者と定義する。



※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

卷末資料 調査票



調査票

尚綱大学「こども教育学部 こども教育学科」(仮称、設置構想中)に関するアンケート

尚綱大学では2023年(令和5年)4月より、「こども教育学部こども教育学科」(仮称)を設置することを構想しています。このアンケートは、高校生みなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、尚綱大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記入要領

1. 回答は、**あてはまる番号**に「○」印をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。**ここに○印をつけてください**
3. 記入は、必ず**鉛筆又はシャープペンシル**で濃く書いてください。
4. 下記の【**良い記入例**】にしたがって記入してください。
特に、「○」印は、**番号丸枠からはみ出さないよう**につけてください。

良い 記入例	<input type="radio"/> 保育・教育学 <input type="radio"/> 社会学	悪い 記入例	<input type="radio"/> 保育・教育学 <input type="radio"/> 社会学	<input checked="" type="radio"/> 保育・教育学 <input type="radio"/> 社会学	<input type="radio"/> 保育・教育学 <input type="radio"/> 社会学
-----------	---	-----------	---	--	---

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	<input type="radio"/> ① 男性 <input type="radio"/> ② 女性	学年 (1つに○)	<input type="radio"/> ① 1年生 <input type="radio"/> ② 2年生 <input type="radio"/> ③ 3年生
在籍している 高校名	高校所在地 [_____] 都・道・府・県 <input type="radio"/> ① 国立 <input type="radio"/> ② 公立 <input type="radio"/> ③ 私立 (←1つに○) [_____] 高等学校		
所属クラス (1つに○)	<input type="radio"/> ① 文系クラス (文系コース) <input type="radio"/> ③ コース選択はない <input type="radio"/> ② 理系クラス (理系コース) <input type="radio"/> ④ その他		

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1 あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

<input type="radio"/> ① 私立大学に進学	<input type="radio"/> ③ 短期大学に進学	<input type="radio"/> ⑤ 就職
<input type="radio"/> ② 国公立大学に進学	<input type="radio"/> ④ 専門学校・専修学校に進学	<input type="radio"/> ⑥ その他

Q2 あなたは、どのような学問に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問分野の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)

<input type="radio"/> ① 保育・教育学・教員養成	<input type="radio"/> ⑦ 国際関係学	<input type="radio"/> ⑬ 農・水産学
<input type="radio"/> ② 社会学・社会福祉学	<input type="radio"/> ⑧ 文学	<input type="radio"/> ⑭ 医学・歯学・薬学
<input type="radio"/> ③ 生活科学	<input type="radio"/> ⑨ 語学	<input type="radio"/> ⑮ その他
<input type="radio"/> ④ 経済・経営・商学	<input type="radio"/> ⑩ 法学	<input type="radio"/> ⑯ まだ決めていない
<input type="radio"/> ⑤ 看護・保健学	<input type="radio"/> ⑪ 芸術学	
<input type="radio"/> ⑥ 総合科学	<input type="radio"/> ⑫ 理学・工学	

企画段階における高校生アンケート結果（令和元年 1年生）

1 調査対象高校・・・地区・進路等の個別高校の特性ごとに抽出した県内10校の女子生徒を調査対象とした
東稜・熊本西・人吉・必由館・八代清流・大津・鹿本・熊本商業・翔陽・尚綱

2 調査数

文科省基本調査 令和元年度 調査票番号135 学年別生徒数 熊本県 1学年女性 7,506人
本調査アンケート回収数 1,280人 / 1学年女性数 7,506人 = 調査対象のカバー率17.1%

3 アンケート結果

<アンケート全体>

進学希望度合	人数	割合
尚綱大学新学部に進学したい	51人	4.0%
尚綱大学短期大学部幼児教育学科に進学したい	92人	7.2%
尚綱に進学したいが、大学か短大か未定	4人	0.3%
幼児教育に関心があるが尚綱には進学しない	152人	11.9%
幼児教育に関心があるが進路は未定	1人	0.1%
幼児教育に関心がない	980人	76.6%
全 体	1,280人	

<高校別>

(1) 幼児教育や保育の学部・学科に関心がありますか

高校名	公私区分	学科区分	立地	調査数	関心あり	関心あり (%)
東稜高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市	163	36	22.1
熊本西高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市	95	40	42.1
人吉高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市外	92	12	13.0
必由館高校	公立高校(市立)	普通科	熊本市	216	43	19.9
八代清流高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	93	14	15.1
大津高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	124	30	24.2
鹿本高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	67	14	20.9
熊本商業高校	公立高校(県立)	実業系	熊本市	235	37	15.7
翔陽高校	公立高校(県立)	普通科・実業系	熊本市外	15	4	26.7
尚綱高校	私立高校	普通科	熊本市	180	70	38.9
全 体				1280	300	23.4

(2) 尚綱大学・尚綱大学短期大学部に進学したいと思いませんか。
((1)で「はい」と答えた者が対象)

高校名	公私区分	学科区分	立地	対象数	進学希望	進学希望率 (率)
東稜高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市	36	14	38.9
熊本西高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市	40	22	55.0
人吉高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市外	12	4	33.3
必由館高校	公立高校(市立)	普通科	熊本市	43	5	11.6
八代清流高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	14	6	42.9
大津高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	30	17	56.7
鹿本高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	14	2	14.3
熊本商業高校	公立高校(県立)	実業系	熊本市	37	10	27.0
翔陽高校	公立高校(県立)	普通科・実業系	熊本市外	4	3	75.0
尚綱高校	私立高校	普通科	熊本市	70	64	91.4
全 体				300	147	49.0

(2-1). 尚綱大学の4年制大学と短期大学(2年制)、どちらに進学したいですか。
 ((2)で「はい」と答えた者が対象)

高校名	公私区分	学科区分	立地	進学希望	大学希望	大学希望率 (率)
東稜高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市	14	9	64.3
熊本西高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市	22	10	45.5
人吉高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市外	4	4	100.0
必由館高校	公立高校(市立)	普通科	熊本市	5	1	20.0
八代清流高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	6	3	50.0
大津高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	17	9	52.9
鹿本高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	2	2	100.0
熊本商業高校	公立高校(県立)	実業系	熊本市	10	5	50.0
翔陽高校	公立高校(県立)	普通科・実業系	熊本市外	3	1	33.3
尚綱高校	私立高校	普通科	熊本市	64	7	10.9
全 体				147	51	34.7

(2-2). 尚綱大学以外でどこの幼児教育・保育の養成課程(大学・専門学校等)に進学したいですか。
 ((2)で「いいえ」と答えた者が対象)

<東稜>

- ・熊本学園大学
- ・九州ルーテル学院大学
- ・平成音楽大学
- ・熊本大学
- ・熊本保健科学大学
- ・長崎大学
- ・宮崎大学
- ・福岡子ども短期大学

<人吉>

- ・福岡教育大学
- ・中村学園大
- ・長崎大学
- ・大阪教育大学
- ・中村学園短大
- ・福岡こども短大
- ・福岡こども専門
- ・安田女子短大
- ・横浜保健福祉専門学校

<必由館>

- ・熊本学園大学
- ・九州ルーテル学院大学
- ・平成音楽大学
- ・熊本大学
- ・福岡子ども短期大学
- ・福岡教育大学
- ・湖東カレッジ
- ・鹿児島大学

<八代清流>

- ・熊本学園大学
- ・公立大学
- ・西日本短大
- ・福岡の大学

<大津>

- ・熊本学園大学
- ・九州ルーテル学院大学
- ・熊本大学
- ・熊本看護専門学校
- ・大原専門学校
- ・福岡こども短期大学

<熊本商業>

- ・熊本学園大学
- ・九州ルーテル学院大学
- ・日本総合教育専門学校

<翔陽>

- ・大原
- ・福岡ベルエポック

<尚綱>

- ・九州ルーテル学院大学
- ・平成音楽大学
- ・熊本大学
- ・福岡リゾート&スポーツ専門学校
- ・大原専門学校
- ・福岡子ども短期大学

企画段階における高校生アンケート結果（令和元年 2年生）

1 調査対象高校・・・地区・進路等の個別高校の特性ごとに抽出した県内8校の女子生徒を調査対象とした
東稜・人吉・必由館・八代清流・大津・熊本商業・翔陽・尚綱

2 調査数

文科省基本調査 令和元年度 調査票番号135 学年別生徒数 熊本県 2学年女性 7,488人
本調査アンケート回収数 1,187人 / 2学年女性数 7,488人 = 調査対象のカバー率15.8%

3 アンケート結果

<アンケート全体>

進学希望度合	人数	割合
尚綱大学新学部に進学したい	46人	3.9%
尚綱大学短期大学部幼児教育学科に進学したい	61人	5.2%
尚綱に進学したいが、大学か短大か未定	1人	0.1%
幼児教育に関心があるが尚綱には進学しない	139人	11.7%
幼児教育に関心がない	940人	79.2%
全 体	1,187人	

<高校別>

(1) 幼児教育や保育の学部・学科に関心がありますか

高校名	公私区分	学科区分	立地	調査数	関心あり	関心あり (率)
東稜高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市	191	50	26.2
人吉高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市外	140	25	17.9
必由館高校	公立高校(市立)	普通科	熊本市	240	45	18.8
八代清流高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	71	9	12.7
大津高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	119	29	24.4
熊本商業高校	公立高校(県立)	実業系	熊本市	233	26	11.2
翔陽高校	公立高校(県立)	普通科・実業系	熊本市外	31	13	41.9
尚綱高校	私立高校	普通科	熊本市	162	50	30.9
全 体				1187	247	20.8

(2) 尚綱大学・尚綱大学短期大学部に進学したいと思いますか。 ((1)で「はい」と答えた者が対象)

高校名	公私区分	学科区分	立地	対象数	進学希望	進学希望率 (率)
東稜高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市	50	9	18.0
人吉高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市外	25	4	16.0
必由館高校	公立高校(市立)	普通科	熊本市	45	20	44.4
八代清流高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	9	6	66.7
大津高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	29	13	44.8
熊本商業高校	公立高校(県立)	実業系	熊本市	26	8	30.8
翔陽高校	公立高校(県立)	普通科・実業系	熊本市外	13	7	53.8
尚綱高校	私立高校	普通科	熊本市	50	41	82.0
全 体				247	108	43.7

(2-1) 尚綱大学の4年制大学と短期大学(2年制)、どちらに進学したいですか。
((2)で「はい」と答えた者が対象)

高校名	公私区分	学科区分	立地	進学希望	大学希望	大学希望率 (率)
東稜高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市	9	7	77.8
人吉高校	公立高校(県立)	普通科(進学校)	熊本市外	4	1	25.0
必由館高校	公立高校(市立)	普通科	熊本市	20	7	35.0
八代清流高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	6	2	33.3
大津高校	公立高校(県立)	普通科	熊本市外	13	5	38.5
熊本商業高校	公立高校(県立)	実業系	熊本市	8	5	62.5
翔陽高校	公立高校(県立)	普通科・実業系	熊本市外	7	0	0.0
尚綱高校	私立高校	普通科	熊本市	41	19	46.3
全 体				108	46	42.6

(2-2) 尚綱大学以外でどこの幼児教育・保育の養成課程(大学・専門学校等)に進学したいですか。
((2)で「いいえ」と答えた者が対象)

<東稜>

- ・熊本学園大学
- ・九州ルーテル学院大学
- ・平成音楽大学
- ・熊本大学
- ・熊本保健科学大学
- ・長崎大学
- ・宮崎大学
- ・福岡子ども短期大学

<人吉>

- ・福岡教育大学
- ・中村学園大
- ・長崎大学
- ・大阪教育大学
- ・中村学園短大
- ・福岡こども短大
- ・福岡こども専門
- ・安田女子短大
- ・横浜保健福祉専門学校

<必由館>

- ・熊本学園大学
- ・九州ルーテル学院大学
- ・平成音楽大学
- ・熊本大学
- ・福岡子ども短期大学
- ・福岡教育大学
- ・湖東カレッジ
- ・鹿児島大学

<八代清流>

- ・熊本学園大学
- ・公立大学
- ・西日本短大
- ・福岡の大学

<大津>

- ・熊本学園大学
- ・九州ルーテル学院大学
- ・熊本大学
- ・熊本看護専門学校
- ・大原専門学校
- ・福岡こども短期大学

<熊商>

- ・熊本学園大学
- ・九州ルーテル学院大学
- ・日本総合教育専門学校

<翔陽>

- ・大原
- ・福岡ベルエポック

<尚綱>

- ・九州ルーテル学院大学
- ・平成音楽大学
- ・熊本大学
- ・福岡リゾート&スポーツ専門学校
- ・大原専門学校
- ・福岡子ども短期大学